

福知山城を中心とした福知山市の観光振興 に関する一考察

A Study on Tourism Promotion Based on the Castle in Fukuchiyama City

富川久美子

要旨

福知山市には、短期間の催しで多くの観光者が集まるが、通年型の観光施設も多数存在する。これらの観光施設における利用者の増大を図ることが福知山市の観光振興に繋がる。しかし、これまで市内の観光施設では利用の実態調査がなされてこなかった。本研究では、福知山城において調査を実施し、観光者の特性や観光行動を明らかにした。その結果、旅行の通過地として福知山城を訪問する者が多いが、訪問後は城を高く評価することなどが明らかになった。福知山市の観光振興には、北近畿内での福知山城のPR強化や、希少性を生かした城づくり、また観光情報の拡充が対策として挙げられ、それによって観光者の回遊行動を促し、滞在時間の延長を図る必要がある。

キーワード: 福知山市、観光振興、福知山城、観光行動

Keywords: Fukuchiyama city, tourism promotion, Fukuchiyama castle, tourist behavior

1. はじめに

福知山市の年間観光入込客数は約100万人である。この中には、スポーツやイベント、祭りなどの「催し」を目的とした観光者が多くを占める。短期間の「催し」で多くの観光者が集まる福知山市であるが、年間をとおして集客できる観光資源も多く存在する。そのなかで、統計調査の対象となっている観光施設は26ある。福知山市では、2006年1月の合併後、新たな観光振興策に取り組んでいるが、これらの施設での利用者の増大を図ることが観光振興の課題のひとつといえる。その対策として、施設のPRや展示の工夫、施設から施設への誘導、などが挙げられる。そのためには、利用者の市場

や特性、観光行動などを把握する必要がある。しかし、福知山市では、このような観光者に対する調査がほとんど行われてこなかった。またその調査の必要性が指摘されていた⁽¹⁾。

本研究では、観光施設の利用者に対する調査を行うことで、観光者の特性や観光行動などを明らかにし、福知山市観光振興の課題を考察することを目的とする。そのため、まず、これまでの福知山市の調査から明らかになった観光施設の利用状況を概観する。次に、調査によって、観光者の特性と観光行動を明らかにする。調査は、郷土資料館として利用されている福知山城で行うこととする。この理由として、福知山城は市のシンボルであり、市民が紹介したい重要な観光資源と位置づけられているためであり⁽²⁾、また、福知山城が福知山市の観光振興に大きな役割を担っているにもかかわらず、これまで城の観光の実態調査がなされてこなかったためである。そして最後に、福知山城訪問者の増加や観光振興に向けた課題を考察する。

2. 福知山市の観光の実態

2.1 観光者の目的

2006年の福知山市の観光入込客数は1,013,631人であった。この入込客数を目的別割合(図1)にみると、もっとも多いのが文化・歴史の29%である。しかし、続くスポーツレクリエーション(25%)にイベント(12%)と行祭事(5%)を含めると、42%が「催し」を目的としている。なかでも11月に開催される「福知山マラソン」(41,017人)、8月の「ドッコイセ福知山花火大会」(36,667人)と「福知山ドッコイセまつり」(22,333人)、そして10月の「北近畿の都福知山産業フェスタ」(20,667人)が2万人以上になる大きな催しであり、これら数日間の入込客数は年間総数の1割を超える。

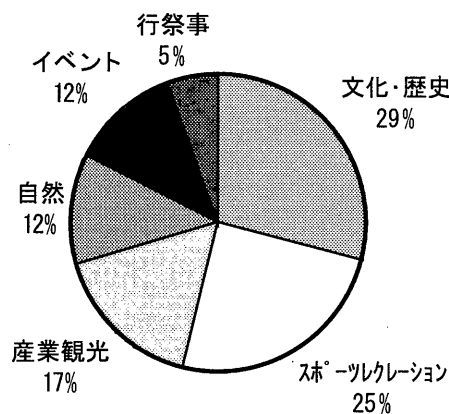


図1：福知山市観光入込客数の目的別割合

資料：福知山市観光商工部観光振興課の統計資料より作成

2.2 主な観光施設と福知山城

福知山市内の 26 の観光施設のうち、利用者数上位 10 位までを、客数を京都府内・外別にして表 1 に示した。これらの 10 施設の入込客数 584,272 人は、京都府内からが 341,421 人、府外からが 242,851 人と、ほぼ 6:4 の割合である。福知山市には、京都府外からの来訪者が大半を占めるような遠方からの誘致力が高い施設はない。入込客数 1 位は「農匠の郷やくの」である。この施設は、温泉や宿泊、レストランなど 11 施設から成る複合施設であり、利用者数はそれらを合わせたため多くなっている⁽³⁾。続いて 2 位が日帰り温泉施設の「福知山温泉（養老の湯）」であり、3 位が、入浴、レストラン、体育館などを含む複合施設の「三和荘」である。これら上位 3 施設は入浴者が多いことで上位にランクされており、その多くを福知山市内もしくは近隣の住民が占めることは、福知山温泉の客に府内客が多くを占めることでも表れている。4 位の「元伊勢」は、京都府外からの参拝者が多いが、6 位の「御霊神社」と同様、とくに初詣の時期である 1 月の入込み客数だけで年間の 50%を超える⁽⁴⁾。社寺観光としては、8 位の「観音寺」が、アジサイの開花時期に花の観賞を兼ねた参拝者が著しく増加する⁽⁵⁾。9 位の「あしぎぬ大雲の里」は、宿泊、レストラン、文化財を含む複合施設である。したがって、客が年間をとおして観光目的で訪れる施設は、5 位の「福知山市動物園」がもっとも多く、続いて 7 位の「郷土資料館・福知山城」、10 位の「日本の鬼の交流博物館」となる。このうち「福知山市動物園」は、子供連れの家族層が多くを占め、リピーターも多いことは容易に推察される。そのため、本研究では、福知山市の観光者の普遍性と入込客数の多さを考慮し、「郷土資料館・福知山城」を調査対象とすることは適当である。

表 1：福知山市観光入込客数上位 10 の観光施設と客数

順位	施設名	単位 人		
		府内客数	府外客数	客数合計
1	農匠の郷やくの	93,025	73,007	166,032
2	福知山温泉（養老の湯）	72,000	29,000	101,000
3	三和荘	54,605	36,403	91,008
4	元伊勢	27,930	51,870	79,800
5	福知山市動物園	26,582	20,861	47,443
6	御霊神社	23,550	780	24,330
7	福知山市郷土資料館・福知山城	12,893	10,119	23,012
8	観音寺	9,640	12,410	22,050
9	あしぎぬ大雲の里	16,625	1,251	17,876
10	日本の鬼の交流博物館	4,571	7,150	11,721

資料：福知山市観光商工部観光振興課の統計資料より作成

福知山城は、1986年に再建されたが、歴史的には1579年に丹波を平定した明智光秀が築城し、明治のはじめに取り壊され石垣と銅門番所、井戸が残っていた。市街地中央の高台に位置し、復元された三層四階の天守閣の望楼からの城下の眺めがよい。内部は郷土資料館として公開し、城に関する資料や福知山地方の歴史・文化財を紹介している。

3. 福知山城観光の実態と観光振興

3.1 福知山城観光の実態調査

福知山城の来館者に対してアンケート調査を実施し、観光者の特性や観光行動、また福知山観光の問題点を明らかにすることにした。調査期間は、2007年11月14日から25日の12日間であり、福知山マラソンの開催日が含まれた。アンケート票は、館内の職員が城内の見学を終了した来館者に手渡し、その場で記入してもらい、回収した。配布部数は2名以上のグループの場合も一部とした。配布したアンケート票は200部、回収は196部である。回答者の構成は、調査員の調べによると夫婦など2人が多くを占めたが、10名以上のグループが少なくとも4組は含まれている。

主な調査結果は本節末にまとめて示した。このデータおよびアンケート票の記載内容を元に、主に明らかになった点は以下のとおりであり、加えて福知山市観光振興の課題を考察する。

福知山城来館者の年齢層は、10歳代から70歳代以上まで幅広く、大きな偏りがみられない。来訪者（回答数）は、「都道府県別居住地」では大阪府がもっとも多く、続く京都府、兵庫県を合わせた3府県が117件と、全体の59%を占めている。アンケートでは、市町村名も聞いており、これによると京阪神が多いことが分かる。「利用交通機関」は、車がほとんどである。「福知山城の訪問理由」は、「もともと城が好きである」、もしくは、「一度来てみたかった」が多いが、これまで通過して目していた城を、福知山訪問や経由の「ついで」に城に寄る者がもっとも多いとみられる。そのため、「市内の他の訪問地」にみるとおり、福知山市内では、城のみの見学が多い。また、「美術館」は城に隣接し、城との共通券があるために立ち寄り者が多くなっている。「市外の他の訪問地」「今回の旅行の期間」「宿泊の場合、その場所」を併せてみると、旅行者は日帰りと宿泊が半々であり、多くが北近畿旅行の経由地として福知山城を訪れていることが分かる。

アンケートの回答から北近畿方面への旅行者を分析したところ、城崎温泉の訪問者は、17件のうち12件が宿泊を伴い、天橋立への訪問では49件のうち26件が宿泊を伴っている。その一方で、日帰りでの訪問は98件あり、そのうち52件（うち福知山市在住が4件）が福知山市のみを訪れ、それ以外は、篠山が16件、天橋立が13件、城崎、舞鶴は共に6件などとなっている。福知山市のみの訪問者の多くは、城以外の観光もしているが、食事や温泉を目的としながら「ついでに」城を訪問する者も少なくない。

このことから、城崎温泉や天橋立への宿泊旅行、もしくは日帰りで福知山や周辺の地域を観光しながら福知山城を見学箇所に加えている者が多いことが明らかになった。したがって、北近畿やその周辺の観光地における福知山観光のPRは有効な手段となり、また、福知山城を目当てに来た観光者の回遊行動を促し、市内での滞在時間を延ばすことが福知山市の観光振興の課題の一つといえる。

次に、福知山城に関する評価である。「城の外観の感想」から、「素晴らしい」と感じる者が過半数を占めている一方で、「興味深かったところ」にみるように、城内および敷地内の見学箇所にはそれほど興味を示さない者が多いことが分かる。とくに、常設の郷土資料と特別展（調査期間は「写真で見る福知山市70年のあゆみ」展）への関心が低い。ところが、「展示物の感想」では、40%が「興味深かった」としていることから、展示物が常設の郷土資料と特別展であることを認識していないとみられる。いずれにしても、内部の展示物には、工夫の余地があると思われる。アンケート票には「その他コメント」として自由記述欄があるが、これによると、特別展による福知山の歴史的な写真や明智光秀関連の資料に興味を示されているようであり、内部が現代的すぎ、畳部屋の良さを活かして欲しい、などの意見がある。したがって、見て楽しめる展示物、明智光秀関連の資料を増やすなどによって、城観光の評価が高まることになり、さらに時代を感じさせる内装が施されれば理想的である。しかし、「また訪問したいか」に関しては、90%がまた来たいと回答している。これは、福知山城が有力な観光資源であることの表れであり、城のPRを強化することで、観光者の誘致が期待できる。

「購入したい福知山土産」と「福知山観光への意見」に関しては、アンケートでは自由記述の回答にしてある。土産に関する回答数は29件と少なく、そのうち共通するものをまとめると、「黒豆」が8件、「せんべい」が6件であったが、21%が「分からない」とするなど、福知山土産の認知度が如何に低いかが明らかとなった。また、福知山観光に関する意見は、様々あるが、パンフレットや標識、食事の場所や観光スポットなどへの不満が多く、つまり「情報」不足であることが指摘されている。したがって、観光情報となる既存の「福知山観光ガイドマップ」などを福知山城はじめ市内各所に配布し、また交通機関、観光スポット、食事場所、土産品の案内などを盛り込んだ案内書の作成や、要所に案内板や標識の設置、インターネットでの観光案内の充実など、情報提供を充実させることが観光振興に不可欠である。

調査結果

◆ 来訪者の年齢層

10代	4%
20代	10%
30代	18%
40代	21%
50代	22%
60代	16%
70代以上	8%

◆ 都道府県別居住地 (回答数の多い順)

大阪府	53件
京都府	33件
兵庫県	32件
愛知県	9件
東京都	7件
滋賀県・神奈川県	各6件
和歌山県	5件
福井県	4件
岐阜県	3件
北海道・新潟県・長野県・富山県・ 奈良県・岡山県・広島県	各2件
栃木県・群馬県・静岡県	
島根県・高知県・沖縄県	各1件

◆ 福知山城訪問の理由

お城めぐりが好き	29%
一度来て見たかった	22%
福知山に来たので	21%
他の場所に行くついでに	11%
明智光秀に興味があった	11%
福知山の郷土資料が見たかった	4%
人に勧められたので	2%
特別展が見たかった	1%
その他 (マラソンに来た、など)	6%

◆ 利用交通機関

車	74%
駅から徒歩	17%
バス	2%
レンタサイクル	1%
その他 (自転車、徒歩、など)	6%

◆ 市内の他の訪問地

城のみ	38%
美術館	13%
三段池	11%
ぼっぼランド	7%
丹波生活衣館	6%
動物園	4%
大江町	3%
御霊神社	3%
三和町	2%
児童科学館	2%
治水記念館	2%
植物園	2%
芦田均記念館	1%
夜久野町	1%
その他	6%

◆ 市外の他の訪問地

天橋立	26%
舞鶴	17%
出石	13%
篠山市	11%
伊根	10%
城崎温泉	9%
京都市	8%
若狭湾	6%
その他	9%

◆ 今回の旅行の期間

日帰り	52%
1泊	34%
2泊	11%
3泊以上	4%

今回で十分	11%
特別展による	2%

◆ 宿泊の場合、その場所

丹後半島	30%
福知山市	26%
城崎温泉	15%
京都市	6%
その他	24%

◆ 城の外観の感想

素晴らしい	56%
ふつう	30%
よく見えなかった	3%
よくない	0%
その他(紅葉が良かった、など)	11%

◆ 興味深かったところ

天守閣からの眺め	24%
石垣	22%
井戸	18%
城の建築	16%
常設の郷土資料	8%
特別展	5%
銅門番所	3%
その他	3%

◆ 展示物の感想

ふつう	46%
興味深かった	40%
つまらなかった	1%
その他(歴史が分かった、など)	12%

◆ また訪問したいか

機会があれば来たい	76%
是非来たい	12%

◆ 購入したい福知山土産

黒豆	28%
せんべい	21%
分からない、教えて欲しいなど	21%

◆ 福知山観光への意見(抜粋)

- ・ インターネット検索では旅館ホテルが少ない。
- ・ もう少し見やすい標識が欲しい。
- ・ 駅に地図を置いて欲しい。
- ・ 福知山振興のため「ひこにゃん」「やまびよん(高地域指定キャラ)」を生み、利用すれば面白い。
- ・ 食事する場所が近くにない。
- ・ 駅の案内を充実させたほうが良い。綾部、舞鶴、宮津との連携をした方がいい。
- ・ 観光案内の人が良かった。
- ・ これだけ大きなマラソン大会を観光資源化したのは立派。
- ・ マラソン大会参加、駅前案内が見難い。
- ・ 食事をする場所が近くにないのであればよい。
- ・ 福知山について歴史も観光もあまりよく知らなかったのもっと情報があつたら楽しめた。
- ・ 市街へのアピール不足。
- ・ 福知山城はとてどもみじが綺麗。又来て見たい。
- ・ 観光スポットが少なすぎると思う。
- ・ 目玉となる観光スポットがあれば来福者も増えると思う。
- ・ 駐車場までの看板がわかりにくい。
- ・ 他県でもいけるが、道の案内がもう少し多いほうが良い。
- ・ 福知山城を全国的にPRし、観光都市になるよう頑張してほしい。
- ・ 駅周辺や道路にももう少しわかりやすい案内があると嬉しい。
- ・ 駅にマップがあればよい。
- ・ パンフレット等が少ない。

3.2 来館者の声

福知山城には、来館者が自由に書き込める「お城ノート」が置かれている。先のアンケート調査に加え、このノートに記載された内容を分析し、来館者の特性と観光行動および福知山城観光の魅力や課題を明らかにする。さらに、城の観光振興に向けた課題を考察する。「お城ノート」は、2004年7月2日から2007年11月9日の約3年間に313名の来館者によって記載された⁽⁶⁾。これらの記載者の居住地、来館目的、城に対する感想、および意見・要望を記述内容から抽出し、まとめてみた。

まず、居住地（「〇〇から来た」など）が明記されているものが49件ある。内訳は京都市（「京都」と明記したもの）からが6名、福知山市内が3名、舞鶴市が2名である。京都府外からは、大阪府が7名、兵庫県が6名（姫路4名、神戸2名）、北海道が3名、神奈川県が2名。以上が複数名確認された都道府県である。これによって、京都府内や近郊からが多い中で、北海道から舞鶴を経由する来訪者や、関東や東海地方など多方面からの来訪者があることが確認された。なお、海外からは、カナダ、台湾、タイから各1名確認された。

次に、福知山城訪問の目的や動機に関しては、134件の記述が確認された。城めぐりや城が好きで訪問したとする者は46名、他の訪問地を目的として「ついで」に城に寄った者が46名であり、そのなかでも温泉または温泉地を目的とした旅行者が28名と、過半数を占める。また、城訪問の動機として多いのは、「明智光秀に興味があるため」が21名いる。このうち「光秀」と明記しているのは13名、「NHKのドラマを見て」などが5名、「ゲーム」で光秀に興味をもった者が3名となっている⁽⁷⁾。

城の感想に関する記載は、185件あった。そのうち、城に対して否定的なコメントを記述した者は2名しかなく、ノートの記載者は、感動したり、好印象を受けた者にほぼ限られることが分かる。なかでも明智光秀に関する記述（「感動した」、「光秀にふれられた」など）がもっとも多く、38名が確認された。そのうち「光秀の城とは知らなかった」が6名いる。ノートにはもともと明智光秀に興味がある者が多く記述した可能性もあるが、ついでに寄った者でも、光秀に関心を寄せる者も多いとみられる。また、城そのものを「美しい・きれい」などと評価している者が12名、「立派・すばらしい」などが9名、「静かで落ち着く」などが6名、「歴史を感じる」などが6名、などとなっている。また、石垣に関心を寄せた者が6名、井戸が4名、和室が4名となっている。これらの人数は重複してはいるが、計33名となり、建築物としての福知山城が高い評価を得ていること、またその理由が確認できた。また、城からの眺めや、城周辺の自然に関して「景色がいい」などと記述した者が23名あった。尚、他の城と比較して福知山城が優れているとする記述があり、比較に挙げられた城は小田原城が2名、田辺城、大阪城、清洲城、岸和田城が各1名、また姫路城と比較して福知山城の良さを認めているのが4名ある。これにより、城好きの者にとっても、福知山城は評価が高いことが分かる。そ

して、「また来たい」と記した者が5名いる。

城に対する意見や要望は14件あり、そのうちの5件が光秀に関する記述である。つまり、「光秀をもっと前面に」、「光秀関連の資料を増やして欲しい」、「みつひで君グッズが欲しい」、などの要望である。

以上、「お城ノート」の自由記述の内容をまとめた結果明らかになったことは、福知山城の観光資源としての魅力である。それは、建築物の美しさ、歴史的な趣、城周辺の景色、城からの眺め、城内の落ち着いた雰囲気であるが、それ以上に、明智光秀を偲ばせることが大きな魅力となっている可能性が高い。このため福知山城は、全国に数多くある城と比較しても高い評価が得られる可能性がある。今後、福知山城への観光者誘致には、北近畿の温泉施設などに福知山城のパンフレットを配布したり、明智光秀関連の資料の展示を増やすなど、「明智光秀の城」のイメージ強化を図り、福知山城の独自性と希少性を生かして全国にアピールすることが戦略となろう。

4. まとめ

本研究は、福知山城における観光者の特性や観光行動などを明らかにし、福知山市の観光振興への課題を考察することを目的とした。まず、これまでの福知山市の調査から明らかになった観光施設の利用状況を概観したが、観光入込客数の42%が「催し」を目的とし、4つの催しの開催期間の数日間で年間入込み客数の1割を超えることが確認された。次に、年間をとおして利用できる観光施設の利用の実態をみると、福知山市には、京都府外からの来訪者が大半を占めるような遠方からの誘致力が高い施設はない。入込客数をもっとも多い観光施設は、日帰り入浴施設、もしくはそれを含む複合施設であり、また社寺観光も多い。したがって、客が年間をとおして観光目的で訪れる施設としては、動物園、福知山城、鬼の交流博物館が上位に挙げられる。このうち、本研究で福知山城を調査対象とすることは客層と入込客数を考慮し、適当である。

福知山城における来館者に対するアンケート調査、および城内に置いてある「お城ノート」の記述内容の分析をとおして、観光者の特性と観光行動を明らかにした。福知山城観光は、主に京阪神から車で城崎温泉や天橋立への宿泊旅行、もしくは日帰り福知山や周辺の地域を訪問する者による「ついで」の要素が強い。しかし、福知山城は、建築物の美しさや歴史的な趣、城周辺の景色や城からの眺め、またそれ以上に、明智光秀を偲ばせること魅力となって来訪者に満足感や感動を与えている。このため、全国多数ある城と比較しても高い評価が得られる可能性がある。その一方で、福知山観光に関する意見では、情報不足への指摘が多くみられる。

今後、福知山城への観光者誘致には、見て楽しめる展示物、さらに時代を感じさせる内装、「明智光秀の城」のイメージ強化など、福知山城の独自性と希少性を生かして全国にアピールすることも戦略となる。そして、福知山城を目当てに来た観光者の回遊行動を促し、市内での滞在時間の延長を図る必要がある。また、福知山市の観光振興には、北近畿の温泉施設や、北近畿周辺の観光地に福知山

観光のパンフレットを配置したり、PR活動を展開したりすることが有効な手段となる。また市内においても、交通機関、観光スポット、食事場所、土産品の案内などを盛り込んだ案内書を作成・配置し、案内板や標識の設置する必要がある。さらにインターネットでの観光案内の充実など、情報提供の拡充が観光振興の重要な課題である。

福知山市は、2006年1月の合併によって範囲の拡大と共に観光資源が増加し、多様性も増した。そのなかで、本研究の調査対象とした福知山城は、市内でもっとも重要な観光資源の一つであり、観光振興に重要な役割を担う。しかし、福知山市の観光振興には、さらに多くの課題が残されている。福知山市でもっとも入込客数の多い入浴施設の活用した買い物や回遊行動の促進、施設運営の問題を抱える第三セクターの経営改善、中心市街地の活性化や農山村地域の観光化など、更なる調査・研究をとおして、観光振興に繋げることが求められる。

謝辞

本研究におけるアンケート調査および「お城ノート」の内容分析にあたっては、福知山城職員の皆様にご協力を頂き、とくに川元達男氏にはご尽力を頂いた。ここに謝意を表します。

《注》

- (1) 観光振興課での聞き取りによる。
- (2) 福知山市が行った「第4次福知山市総合計画策定」のための調査結果など。
- (3) 2008年1月現在、当施設は6施設が指定管理者の破産により閉鎖中であり、それ以外の5施設が営業中である。
- (4) 「平成18年月別観光入込客数」の統計によると、1月の客数は、元伊勢で40,000人と全体の約50%、御霊神社で16,350人と全体の約67%を占める。
- (5) 「平成18年月別観光入込客数」の統計によると、観音寺の入込客数は、合計22,050人中、6月のみで13,600人に上る。
- (6) ノートの記載内容は、福知山城職員の川元氏がデータベースにしたものを元に、筆者がキーワード検索をしながらまとめた。
- (7) NHK大河ドラマ「功名が辻」で明智光秀が演じられた。放映は2006年1月から12月。